



シラバス参照

タイトル「2014年度 教養科目シラバス」、フォルダ「2014年度 教養科目シラバス-2014年度「教養の森」科目群【科目群5】」
シラバスの詳細は以下となります。



科目名	日本の文化と国際交流		
担当教員	東 悦子		
対象学年		クラス	
講義室		開講学期	前期
曜日・時限	水 3	単位区分	
授業形態	講義	単位数	2
準備事項			
備考	全学部・全学年		
科目名 (英語表記)	Japanese culture and International exchange		
授業のねらい・概要・科目の位置付け	<p>国際交流の醍醐味の一つとして、多様な文化背景を持つヒト・モノ・コトとの出会いやコミュニケーションが挙げられる。さまざまな交流を通して互いの相違点に驚きを見出し、共通点には親近感を覚える。他の文化を通して自らの文化をふりかえる機会ともなる。だが国際交流は単に楽しいことばかりではない。コミュニケーション・ギャップから思わぬ誤解や文化摩擦を生じることがある。そこで、授業のねらいの一つを「相互理解」という点におき、「異文化間コミュニケーション」の観点から日本の文化・社会や諸外国の文化・社会と日本との関わりについて、親しみもてるトピックを取り上げつつ理解を深める。もう一つのねらいは、プロジェクトワークを通して、学生自らがテーマを設定し、自己あるいは諸外国の文化や社会などについての知見を広め、その成果発表として、グループによるプレゼンテーションを行う。その過程を通して共に学び、発信する力を養う。</p>		
授業計画	<p>■第2回～第7回の実施順序は変更する場合がある。■ゲスト・スピーカーが参加する講義も含まれる。</p> <p>第1回 国際交流と異文化間コミュニケーションについて 第2回 日本の文化・社会 1 第3回 日本の文化・社会 2 第4回 日本の文化・社会 3 第5回 日本の文化・社会 4 第6回 諸外国の文化・社会と日本 1 第7回 諸外国の文化・社会と日本 2 第8回 諸外国の文化・社会と日本 3 第9回 中間のまとめ&プロジェクトワークに向けて(テーマ決定や調査方法などについて) 第10回 プレゼンテーションA 第11回 プロジェクトワーク 第12回 プロジェクトワーク 第13回 プレゼンテーションB(グループ発表) 第14回 プレゼンテーションB(グループ発表) 第15回 まとめ</p> <p>■日本の文化・社会で予定しているトピックの例 (包みの文化：“もったいない”と風呂敷、食に関わる文化：“嫌い箸と食事作法”、くらしとコミュニケーション：“江戸しぐさ”：さまざまな年中行事など)</p>		
到達目標	<p>■異なる文化背景をもつ他者や異なる文化・社会への理解を深め、自己のそれと比較・分析する力を養う。 ■自己をとりまく文化・社会などについて理解を深め、異文化間コミュニケーションの観点を踏まえて、他者にプレゼンテーションできる力を養う。 ■プロジェクトワークを通して発信する力や他者と協同する姿勢を養う。</p>		
成績評価方法	■出席 20%・プレゼンテーションA 20%・プレゼンテーションB (グループ発表) 30%・レポート 30%		
教科書	■使用しない。適宜資料を配布する。		
参考書	■授業において紹介する。		

履修上の注意・メッセージ	■自国および多様な国々の人・文化・社会などに関心を持つ学生を対象としたクラスです。クラスメイトと協同して活動に取り組めることが必要とされます。 ■単位を出すための出席率は3分の2以上です。遅刻は2分の1の欠席とみなします。
授業時間外学習	毎回の授業内容を振り返り、ノートや資料で復習してください。そこから生じる新たな疑問や興味に応じて、図書館を活用しインターネットや書籍などで調べてみましょう。新たな発見があれば、授業へとフィードバックしてください。講義を一方向的に聴くだけでなく、自主的に学習することが自己の学びにつながります。

